

認定 NPO 法人 ふーどばんく OSAKA

格差解消と食糧支援の事業安定への
一体的対策事業



WAM助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

令和5年度(補正予算)WAM助成事業 報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

目次

1.	はじめに.....	1
2.	ふーどばんく OSAKA の活動	2
3.	背景と課題.....	4
4.	実施事業.....	6
	(1) 生活困窮者等への野菜、果物、パン等の栄養素の高い食品輸送事業	6
	●実施内容.....	6
	●活動実績.....	8
	(2) フードドライブを活用した広報活動及び新規食品提供団体・個人の確保.....	12
	●実施内容.....	12
	●活動実績.....	13
	●活動写真.....	14
	(3) こども食堂応援事業.....	15
	●実施内容.....	15
	●活動実績の一例	16
	●活動写真の一例	17
5.	ふーどばんく OSAKA への支援のお願い.....	18

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった2020年3月以降、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」など、社会活動に対する長期的な制限が実施されました。2023年5月に感染症法上の分類が2類相当から5類へと変更され、一段落したものの、その影響は依然として大きく、経済的困窮や社会的孤立に直面する人々が増加しています。

さらに、2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、世界的な物価高騰を引き起こし、特にエネルギー価格の上昇が顕著でした。

このインフレは、日本国内の生活必需品の価格上昇を招き、低・中所得層の生活を一層圧迫しています。

これらの状況下で、支援を必要とする方々が急増し、食糧支援や自立支援の方法も多様化・細分化されています。認定NPO法人ふーどばんく OSAKA には、「食べていくことができない」「生活が成り立たない」といった切実な相談が寄せられています。また、「どこに相談すればよいかわからない」「役所に相談しても生活保護を受けているから支援ができない」といった、相談先が見つからず孤立するケースも増加しています。これは、社会状況の変化に対応しきれていない制度や行政の課題を浮き彫りにしています。

一方で、地域における支え合いの活動として、「子ども食堂」の増加や、専門分野で協力し複合的な課題に取り組むネットワーク型の団体も増えています。社会状況の急激な変化と新たな課題に対し、社会参画の形が大きく変わろうとしています。

このような背景のもと、令和5年度(補正予算)WAM助成事業「格差解消と食糧支援の事業安定への一体的対策事業」に取り組み、多様な地域支援団体と連携し、格差解消に向けた食糧支援を行ってきました。子ども食堂、地域支援団体、困窮者相談窓口などと協力し、食糧支援を通じて地域支援を推進しました。この取り組みにより、従来の一方的な支援ではなく、当事者や地域を巻き込んだ全員参加型の支援へと発展し、大きな成果が見られました。これらの成果を基に、今後もさらなる活動の向上に努めていきます。

認定NPO法人ふーどばんく OSAKA 事務局長 森本 範人

2. ふーどばんく OSAKA の活動

フードバンク活動とは、まだ食べることができるのに捨てられてしまう食品を無償で提供してもらい、食の支援を必要とする施設・団体・個人に無償で提供する活動です。



環境問題と社会福祉に取り組む活動です。

私たちのフードバンク事業は、食品ロス削減と困窮者支援を両立させる使命を持ち、活動を続けています。大阪府内では、市町村ごとに生活困窮者自立支援機関の支援内容に格差があり、一部地域では十分な支援が行き届いていない現状があります。この支援の不均衡は、制度の狭間にいる生活困窮者やひきこもり状態にある人々が必要な支援を受けられない要因となっています。そのため、ふーどばんく OSAKA の取り組みは、これらの課題を補う重要な役割を担っています。

当法人では、支援機関と対象者を繋ぐまでの「空白期間」を埋めるべく、迅速かつ直接的な個別支援を実施しています。SOS メールや電話相談を通じて寄せられる要望に基づき、食料品など必要な物資を即時に提供し、支援が行き届いていない人々の生活面をサポートします。同時に、関係機関との連携を強化し、食糧支援の判断基準の統一や情報共有を進め、より多くの人々が公平に支援を受けられる仕組みを構築します。

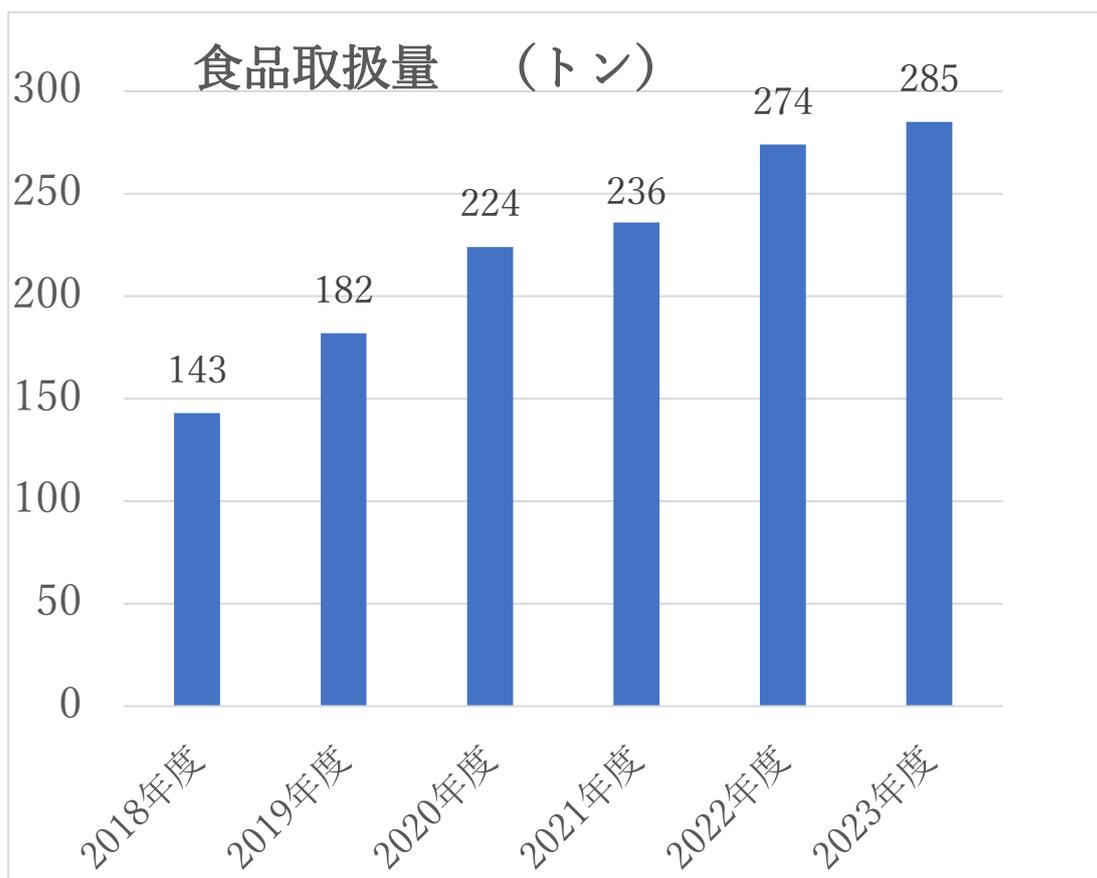
また、物価高騰が深刻化する中で、特に低所得世帯や子どもを持つ家庭への影響が大きいことから、地域全体での支援体制の拡充が急務です。当法人は、地域社会のセーフティーネットとして、支援格差の解消に向けた取り組みをさらに推進し、すべての人が安心して暮らせる社会の実現を目指します。

今後も、私たちのフードバンク活動を通じて、食品ロス削減と困窮者支援の両立を進め、より多くの方々に食の支援を届けられるよう努めてまいります。この報告書を通じて、私たちの取り組みが広く理解され、さらなる支援の輪が広がることを願っています。

●法人立ち上げからの食品取扱量

・2013年～2023年までの食品回収団体(個人含む)実績 総件数 1193団体

・2013年～2023年までの食品回収量(個人含む)実績 総重量 1634、8t



※ 農林水産省の処理費用の目安として1kg600円の費用が必要との見解

※ 活動開始から11年で11億3400万円の処理費を削減し食品ロスをなくしています。

3. 背景と課題

近年の物価高騰やコロナ禍の長期化により、生活困窮者の増加が顕著となっています。この影響で、行政の制度や支援の枠組みでは対応しきれない方々が増え、食の支援格差がより深刻な問題となっています。特に、先述した通り大阪府内では市町村ごとに支援の内容や範囲にばらつきがあり、必要な支援が十分に届かないケースが多く見受けられます。

当法人がこの課題に取り組む理由は、支援の狭間に置かれた人々が増加し、迅速かつ公平な支援の必要性が高まっているためです。これまでの活動を通じて、生活困窮者の多くが食料支援を必要としている一方で、その支援が十分に行き届いていない現実直面してきました。特に、ひとり親家庭や子どもを抱える世帯、高齢者世帯では、安定的な食の確保がますます困難になっています。

●生活困窮者自立支援相談窓口 21団体



また、食糧供給量の増加に伴い、当法人の事業運営にも新たな課題が生じています。食料の提供量が増えることで、それに伴う輸送費や保管費用が拡大し、持続可能な支援を続けるための資金確保が喫緊の課題となっています。現行の制度では、支援の持続可能性を確保することが難しく、新たな支援体制の構築と運営資源の確保が求められています。

加えて、企業や団体からの食品寄付の増加に関しても、新たな課題を生んでいます。食品の寄付が増加するなか、その管理や適切な分配が求められています。特に、食品の安全性を確保しながら迅速に届ける仕組みが必要であり、適切な在庫管理と配送ネットワークの強化が急務となっています。

さらに、支援の現場では、単なる食料提供だけでなく、生活困窮者の自立を支援する取り組み

も求められています。食の支援を受けることで安心感を得ると同時に、社会とのつながりを持ち、より良い生活へとつなげるためのサポートが必要です。そこで、私たちは関係機関との連携を深め、食料支援とともに食料支援をツールに就労支援や相談支援に繋げる取り組みを強化しています。

こうした状況の中、当法人はこれまで支援が行き届かなかった方々への直接的かつ具体的な支援を強化し、食の支援格差を解消することを目指します。本事業を通じて、支援を必要とするすべての人々が安心して生活できる社会の実現に向け、地域社会全体での支援体制の強化に取り組んでまいります。

この取り組みを進めるにあたっては、地域住民や企業、行政機関の協力が不可欠です。食の支援をより効果的に行うためには、食品提供者と受益者を繋ぐ仕組みをさらに整備し、フードロス削減と食料支援の両立を図る必要があります。また、ボランティアや地域の支援団体との連携を強化し、食料支援を通じたコミュニティの形成にも注力していきます。

●ふーどばんく OSAKA 緊急支援(対応件数)



今後、持続可能な支援を実現するためには、資金調達が多様化も求められます。寄付や助成金だけに頼るのではなく、新たな収益事業の展開や協賛企業の拡大を図り、安定した運営基盤を築くことが重要です。これにより、支援を必要とするすべての人々が継続的に食料を得られる環境を整えていきます。

私たちは、すべての人が安心して暮らせる社会の実現を目指し、今後も支援活動の充実を図りながら、より多くの人々に手を差し伸べることができるよう努力を続けてまいります。

4. 実施事業

(1) 生活困窮者等への野菜、果物、パン等の栄養素の高い食品輸送事業

● 実施内容

現在、ふーどばんく OSAKA は、大阪府内の支援ネットワークを拡充し、食料支援の安定供給を目指しています。その一環として、門真市にオープンしたコストコホールセールジャパン株式会社（以下、コストコ）との提携を開始しました。この提携により、食品ロス削減と食糧支援の両立を図る活動を強化し、持続可能な食糧供給体制の構築を進めています。

具体的には、月曜日から金曜日の午前中にコストコへ出向き、野菜、果物、パンなどの栄養価の高い食品を回収しています。回収された食品は速やかに仕分けされ、府内の支援団体、福祉施設、子ども食堂、生活困窮者自立支援機関などに配送されます。この迅速な供給体制により、必要としている人々のもとへ新鮮な食品を届けることが可能となり、栄養バランスのとれた食生活の支援に繋がっています。

また、単に食品を提供するだけでなく、各支援機関と密接に連携し、受け取る人々が適切な支援へ繋がれるような仕組み作りを進めています。例えば、食料を受け取った方々に対し、生活相談や就労支援の窓口を案内し、自立に向けた包括的なサポートを行っています。これにより、一時的な食糧支援にとどまらず、長期的な生活の安定や社会復帰を目指すことが可能となります。

さらに、支援体制の公平性を確保するため、地域ごとの支援格差を是正する取り組みも行っています。大阪府内では自治体ごとに生活困窮者支援の内容が異なり、一部の地域では十分なサポートを受けられない状況が続いています。そのため、ふーどばんく OSAKA は、支援機関との連携を強化し、情報共有や支援における判断基準の統一を進めることで、支援が必要な人々へ迅速かつ公平に食料が行き渡る体制を整えています。

また、事業の効率化と持続性を高めるため、食品の回収・配送においては環境負荷の低減にも配慮しながら運営しています。例えば、配送ルート最適化を図り、輸送コストの削減と温室効果ガス排出の抑制に努めています。さらに、寄付された食品の品質管理を徹底し、衛生的かつ安全な食料提供を行うことで、受け取る側の健康リスクを最小限に抑える取り組みも実施しています。

このような活動を通じて、ふーどばんく OSAKA は単なる食糧支援にとどまらず、地域全体の福祉の向上を目指し、多様な支援機関と協力しながら包括的な支援を展開しています。今後も、食品ロス削減と生活困窮者支援の両輪で社会に貢献し、より多くの人々が安心して生活できる環境作りに寄与していきます。

●コストコ食品の配布先一覧

	月	火	水	木	金
第1	・くらしサポートセンター守口	・住吉隣保館 ・よさみ人権協会	・Homedor ・Kitto	・NPO 法人 芽ばえ	豊川いのち愛ゆめ C
第2	・くらしサポートセンター守口	・大阪みなみ外国語学院	・NPO COCO ・いこっと	・国際学院 C	・豊川いのち愛ゆめ C NW ・よさみ人権協会
第3	・くらしサポートセンター ・ワークベース	・住吉隣保館 ・よさみ人権協会	・Homedor ・Kitto	・NPO 法人 芽ばえ	・豊川いのち愛ゆめ C
第4	・くらしサポートセンター守口 ・社福 サライ	・大阪みなみ外国語学院	・NPO COCO ・いこっと	・国際学院 C	・泉南市人権協会
第5	・くらしサポートセンター守口 ・ワークベース	・よさみ人権協会 ・住吉隣保館		・NPO 法人 芽ばえ	・泉南市人権協会 NW

●活動実績

コストコから提供された食品は、ふーどばんく OSAKA を通じて、上記の生活困窮者自立支援窓口、隣保館、ホームレス支援団体、こども支援団体等を通じて、支援が必要とする団体や家庭に届けられています。特に、生活困窮者や子ども食堂へ食品配布を行い、地域全体の食のセーフティネット強化に寄与しています。



●支援団体の声

①くらしサポートセンター守口(生活困窮者自立支援窓口)(大阪府守口市)

コストコのパンや野菜の提供は、当センターの支援対象者、関係機関からも高く評価されています。毎週月曜日に届けられる食品は、ライフラインが止まってしまった方々の主食となり、安定した食品提供分量の確保にもつながっています。また、野菜などの栄養補給が可能となることで、健康維持の観点からも重要な役割を果たしています。

特に、若者や子育て世帯、生活困窮者の支援においては、こうした食糧支援が安心感をもたらす、次のステップに進むための基盤を提供します。その結果、就職活動を継続できるだけでなく、住居確保給付金や生活保護といった制度の利用につながるケースも増えています。

さらに、こうした支援はアウトリーチ活動にも役立ち、支援が必要な人々の発見につながる重要な手段となっています。食糧支援をきっかけに相談の機会が生まれ、適切な支援につなげることで、より多くの方が社会復帰への道を見つけることができるようになります。

②ここサポ泉南(生活困窮者自立支援窓口)(大阪府泉南市)

泉南市では、毎月第4・第5金曜日にコストコ門真から社会福祉法人恩賜財団済生会支部泉南医療福祉センターと協力し、フードバンクの食品引き取りを行っています。引き取った食品は、泉南市内のこども食堂、生活困窮者、ひとり親家庭などへ提供され、地域支援活動に活用されています。

【こども食堂】

各団体が引き取りに来て、食品は調理や配布に使用されています。こども食堂では、地域の子どもたちへの食事提供に活用され、食の支援が行われています。

【生活困窮世帯】

生活困窮者自立相談窓口で相談を受けた方々に食品を提供しています。また、就労準備支援事業においても、調理実習に活用するなど、生活困窮世帯の自立支援にもつながっています。

【地域 NPO 法人】

地域の NPO 法人では、各家庭への直接配食にも活用されています。これにより、地域住民への支援がさらに強化され、直接的な食事支援が行われています。

【フードロス対策と支援のつながり】

フードバンクの活動は、単にフードロスを削減するためだけでなく、生活支援の一環として、次の相談や支援へのきっかけを作る重要な役割を担っています。提供された食品が生活困窮者や支援を必要とする家庭に届くことで、地域支援のネットワークが強化され、困難を抱える方々の自立支援にもつながっています。

【今後の課題と展望】

引き続きフードバンク活動を通じて地域の支援が広がり、より多くの困難を抱えた方々に届くような取り組みを進めていく必要があります。また、地域住民や企業との協力を深め、より効率的なフードバンク運営を目指していきます。

③若者支援・子ども食堂「いっこと」(大阪府阪南市)

泉州南部を中心に若者支援を行う当団体は、コロナ禍を経て子ども食堂の運営を開始し、現在では阪南市を中心に岬町、泉南市などの地域団体とも連携し、幅広い地域で自立支援活動を展開しています。通常時は約30名の参加者があり、イベント時には数百名規模での食支援を実施しています。

コストコ門真店から提供される食品の活用により、以下のようなメリットを実感しています。

【地域連携の強化】

月に2回、コストコ門真店からの食品を配布することで、地域の他団体との連携が深まり、情報交換や連絡が円滑に行えるようになりました。

【行政との協力拡大】

阪南市以外にも、岬町役場の職員を通じて近隣の団体へ食品を提供するなど、行政との連携が強化され、活動範囲が広がりました。

これらの取り組みにより、地域全体での支援体制が強化され、より多くの方々への支援が可能となっています。

④子ども食堂・地域支援団体「芽ばえ」(大阪府寝屋川市)

寝屋川市を中心に子ども食堂を運営する当団体は、活動を通じて地域の課題を明確化し、現在ではシングルで子育てをしている方や孤立する若者などへの食支援も行い、地域の交流の場として機能しています。

コストコ門真店から提供される食品の活用により、以下のようなメリットを実感しています。

【若年層への人気商品提供】

コストコのパンは若い世代に大変人気があり、経済的に厳しい方や大量消費が難しい方にも喜ばれています。

【定期的な配布による周知効果】

月2回の定期的な配布により、地域の支援の輪が広がり、20代・30代の世代との活動を通じて新たな仲間が増えています。

これらの取り組みにより、地域全体の支援体制が強化され、多様な世代との連携が進んでいます。



▲コストコパンの食品提供

(2)フードドライブを活用した広報活動及び新規食品提供団体・個人の確保

●実施内容

ふーどばんく OSAKA では、フードドライブを活用した広報活動の強化と、新規の食品提供団体・個人の確保を目的に、さまざまな取り組みを展開しています。生活困窮者世帯の支援において、根本的課題解決に向けた相談支援につながり効果が見られるまで、食料の安定的な供給は極めて重要です。そのため、企業や府民の協力を得ながら、フードバンク事業の認知度を向上させ、支援の輪を広げていくことが求められています。

フードドライブ活動の一環として、マックスバリュ、ダイエー、ファミリーマート、イトーヨーカドー、いずみ市民生協などの食品販売事業所と連携し、店頭でのフードドライブ、在庫の引き取りを実施します。これにより、日常的に余剰食品を提供できる仕組みを構築し、フードロスの削減を図ることができます。

また、行政機関や地域団体、商店街などが開催するイベントでのフードドライブ活動も積極的に展開し、より多くの府民にフードバンクの取り組みを知ってもらう機会を創出します。これらのイベントでは、食品提供の方法やフードバンク事業の意義についての説明を行い、協力を呼びかけます。

さらに、新規の連携団体の開拓にも力を入れています。企業や団体だけでなく、個人レベルでの支援の可能性を模索し、幅広いネットワークを構築することが重要です。そのため、SNS や広報誌を活用した情報発信を強化し、より多くの人々にフードバンク活動への参加を促します。

こうした取り組みを通じて、「捨てるのがもったいないが、どうしてよいかわからない」という意識を「誰かのために」へ変えそして「ありがとう」に繋がる活動を推進します。食品提供者と受益者をつなぐ橋渡し役として、フードドライブの活動を充実させ、食品ロス削減と生活困窮者支援の両立を目指します。

フードドライブの拡充により、生活困窮者世帯に必要な食品を安定的に届けることが可能となり、地域社会全体で支え合う仕組みが形成されます。今後も多くの協力者を募り、持続可能な支援体制の構築に努めていきます。

●活動実績

ふーどばんく OSAKA の 2024 年度におけるフードドライブ活動実績は以下の通りです。

2024 年フードドライブ活動報告

団体名	重量	
ダイエー(府内 52 店舗)	2385.5	kg
KOHYO(府内 42 店舗)	4129.1	kg
イトーヨーカドー(近畿 7 店舗)	2487.8	kg
ファミリーマート(2024 年 3 月開始 府内 33 店舗)	464.9	kg
いずみ市民生協(府内各店舗)	3125.2	kg
NTT 西日本(社員提供)	598.5	kg
その他 17 企業団体	523.083	kg
合計	13714.083	kg

期間 2024 年 4 月~2025 年 1 月

フードドライブ提供 企業・団体 23 団体

総重量 13714.083Kg (13.7t)

フードドライブ活動開始の 2016 年は約 400Kg でしたが、現在、生活困窮者支援の食品活用や子ども食堂の食品提供などドライ食品ならではの活用によって支援範囲も広がっています。今後も引き続き活動を広め充実した食品提供をめざします。

これらの活動を通じて、多くの企業や団体からのご支援を受け、生活困窮者への食糧支援を継続的に行っています。

●活動写真



▲寄付いただいた事業所へ引き取り



▲寄贈されたお米



▲いずみ市民生協商品の引き取り



▲冷凍食品の引き取り

(3) こども食堂応援事業

●実施内容

ふーどばんく OSAKA は、現在 233 ヶ所のこども食堂と連携し、食品提供を行っています。しかし、各こども食堂の運営状況は多様であり、多くが非営利団体やボランティアによって支えられ、資金調達や人材育成、地域連携などの課題に直面しています。そこで、当法人は食品提供にとどまらず、こども食堂の持続的な運営を支援し、地域コミュニティの強化を目指す「こども食堂応援事業」を実施しています。

●食材調達のノウハウ提供：

こども食堂の代表者が定期的に当法人の施設を訪れる際、食材確保に関するノウハウを共有します。

●食品提供団体や地域支援団体の紹介：

当法人の広範なネットワークを活用し、こども食堂に対して新たな食品提供団体や地域の支援団体を紹介します。

●地方自治体の補助事業の案内：

こども食堂が利用可能な地方自治体の補助金や支援策に関する情報を提供します。

●情報共有と交流の場の提供：

こども食堂間の情報共有や交流を促進するための必要に応じて、ふーどばんく OSAKA が橋渡しをします。各団体が直面する課題や成功事例を共有します。

これらの取り組みを通じて、こども食堂の運営基盤を強化し、地域コミュニティ全体で子どもたちの健全な成長を支える環境を構築します。ふーどばんく OSAKA では、こども食堂と協力し、持続可能な支援体制の確立を目指します。

●支援団体の声

・NPO 法人 COCO いこっととふーどばんく OSAKA の連携

食品支援を通じた孤立防止の取り組みを進めています。食事を単なる栄養補給の手段ではなく、「人とつながる機会」として捉え、地域社会の中で孤立してしまった方々が安心して集える居場所づくりを目指しています。

・連携による食品支援

ふーどばんく OSAKA の協力のもと、企業やスーパー、農家などから提供された食品を活用し、地域の困窮者やひきこもり状態にある方々へ無償で提供しています。2023 年度は、約 1,200 世帯に食品を届けることができました。

・食事を通じた居場所づくり

単なる食品配布にとどまらず、支援を受けた方々が気軽に集える場を提供しています。例えば、月に 4 回「地域食堂」を開催し、食事を囲みながら自然な会話が生まれる機会を創出しています。

【現状と課題】

(1) 支援対象の拡大

現在の支援対象は主に阪南市内の世帯ですが、今後は近隣地域にも拡大し、より多くの方々が支援を受けられるよう体制を整備していきます。

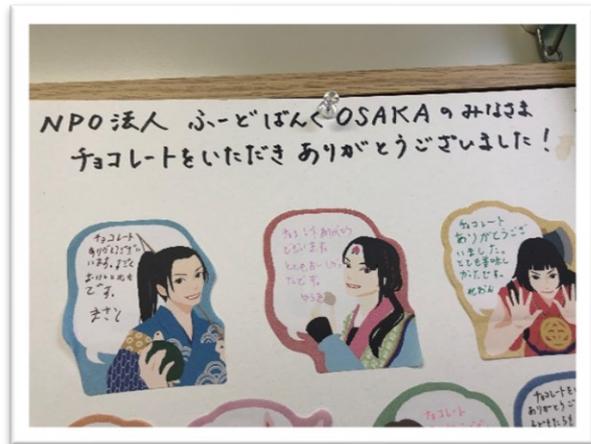
(2) 企業・行政との連携強化

食品寄贈を行う企業との連携をさらに広げるとともに、自治体と協力しながら支援の安定化を図ります。また、企業向けに「食品ロス削減と社会貢献」をテーマにした啓発活動を展開し、寄贈促進につなげていきます。

●活動写真の一例



▲こども食堂の方に食材提供



▲こどもさんからのお礼の手紙

5. ふーどばんく OSAKA への支援のお願い

ふーどばんく OSAKA は、まだ食べられるのに廃棄される食品を企業や個人の皆さまから提供いただき、生活に困窮する方々や福祉施設へ届ける活動を行っています。食品ロスの削減と支援を必要とする方々への助け合いを両立するために、皆さまのご協力が不可欠です。

① 食品・生活用品のご提供

ご家庭や企業で余っている食品(賞味期限内のもの)や、生活用品のご寄付を受け付けています。特に、以下のようなものを必要としています。

- ・お米、乾麺、缶詰、レトルト食品
- ・お菓子、飲料(未開封のもの)
- ・日用品(洗剤、石鹸、紙製品 など)

フードバンクで扱う食品、扱えない食品

フードバンクとして扱うことのできる食品と、扱えない食品は、概ね以下のとおりです。

寄付を受けられる食品



缶詰など加工食品



野菜・果物など
生鮮食品



(賞味期限の近い)
防災備蓄品

など



米・パンなど穀物



冷凍食品

寄付を受けられない食品



お弁当
(理由:販売期限と
消費期限の間隔が
短すぎて配送できない)



サンドウィッチ
(理由:お弁当と同様)



食べ残しの食品
(理由:衛生上の問題)

など



賞味期限が切れた食品、
賞味期限の記載のない食品
(理由:安全上の問題)

参加方法と対象者

食品、備品、機材などを提供して下さる方



ふーどばんく OSAKA では、フードバンク活動を支援して下さる企業・法人を募っています。

支援の方法

食べ物の寄付

フードバンクの活動では
欠かせないものです。

備品や機材の寄付

各施設などに配送するためのカゴや、
折りたたみコンテナ
クーラーボックス、台車

運搬のご協力

当法人までの寄贈食品の運搬など。

② ボランティアとして活動に参加

食品の仕分け・配送などの活動をお手伝いいただけるボランティアを募集しています。短時間からの参加も可能です。社会貢献に興味のある方、ぜひ一緒に活動しませんか？

参加方法と対象者

ボランティアを希望の方



ふーどばんく OSAKA では、皆さんの時間の寄付(ボランティア等)も受け付けています。
配送作業や仕分け、事務作業などの活動の時間の寄付をしませんか？

登録のご注意

ボランティア活動に参加する(団体・個人)にあたって下記事項に同意していただきます。

【平日ボランティア参加時間】

【月～金】10:00～16:00

【休日ふーどばんくデー】

【第4土曜日】10:00～16:00

当日の活動内容によりボランティア活動時間帯が変わる場合がありますので、
その都度、変更の際にはお知らせいたします。ご了承ください。

③ 活動資金のご支援

ふーどばんく OSAKA の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。食品の運搬や倉庫管理、運営費のための資金援助にご協力をお願いいたします。

会員になる・お金の寄付など活動を支援して下さる方



寄付金

ふーどばんく OSAKA の事業は、皆さまからの寄付と年会費等によって運営されています。
ご寄付によってふーどばんく OSAKA を支えていただける方を募集しています。
寄付はおいくらからでも受け付けております。
振込先は下記のとおりです。いずれかの口座にお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座の場合

口座番号 00980-5-302659
口座名義 特定非営利活動法人 ふーどばんく OSAKA

銀行振込の場合

銀行 名りそな銀行 桜川支店
番号 (普通) 0188720
口座名義 特定非営利活動法人 ふーどばんく OSAKA
理事長 赤井隆史

認定NPO法人の税制優遇

個人が認定NPO法人に寄付をした場合

「寄付金控除」制度が適用され、確定申告をすることで、税金の還付を受けることができます。
住民税の納税先自治体の条例次第ですが、40～50%が～所得税の税額控除の対象となります。

企業など法人が認定NPO法人に寄付をした場合

「特別損金算入制度額」扱いとなり、一般のNPOと比べ、経費として扱える寄付金の限度額が高くなります。

相続人が認定NPO法人に相続財産を寄付をした場合

寄付をした相続財産は相続税が非課税になります。



認定NPO法人ふーどばんくOSAKA

〒599-8101 堺市東区八下町1-122 大阪食品流通センター内

TEL:072-258-2201 FAX:072-275-7763

info@foodbank-osaka.jp

<http://foodbank-osaka.jp/>